

## ■ 整理・要約

## 1 ギリシア思想の流れ

神話の世界	自然哲学	ソフィスト	ポリスの哲学	ヘレニズム時代の思想
ホメロス	タレス	プロタゴラス	ソクラテス	ストア派ゼノン
『イリアス』	ヘラクレイトス	ゴルギアス	プラトン	↳コスモポリタン
『オデュッセイア』	エンペドクレス		アリストテレス	エピクロス派エピクロス
ヘシオドス	デモクリトス			新プラトン主義
『神統記』	ピュタゴラス			(プロティノス, 3世紀)

## 2 万物の根源（アルケー）の探求

\* 自然哲学…自然の生成変化とその秩序に注目

タレス	水	自然哲学の祖, 「万物の根源（アルケー）は水である」	} ミレトス学派
アナクシマン드로ス	無限なもの	質的にも量的にも限定されない無限なもの	
アナクシメネス	空気	永遠に循環する空気	
ピュタゴラス	数	宇宙の調和と秩序の根源, 教団をつくり魂の浄化を求める	
ヘラクレイトス	火	「万物は流転する」, 弁証法の祖	
エンペドクレス	土・水・火・空気	愛と憎しみによって離合集散する。多元論	
デモクリトス	原子（アトム）	これ以上分割できない微小な物的存在, 唯物論的な考え	

\* エレア学派…論理的思考を展開（プラトンに影響をあたえる）

パルメニデス	「在るものは在り, 在らぬもの（無）は在らぬ」（存在一元論）, 存在は生成消滅しない
（エレアの）ゼノン	「アキレスと亀」などのパラドックス（逆説）を用いて, 運動の可能性を否定

## 3 ソフィスト：政治的知識, 弁論術などを教える職業的教師（のちに詭弁家といわれる）

プロタゴラス	「人間は万物の尺度である」, 相対主義・主観主義
ゴルギアス	懐疑主義（客観的真理の否定）→真理の相対化

## 4 ソクラテスの思想

魂（プシュケー）への配慮	魂ができるだけすぐれたものになるようにすること
無知の知	自分が何も知らないということを知ること→真の知への探求
問答法（助産術）	問答（対話）をくり返すことにより, 相手に無知を自覚させ, 真の知へ向かわせようとする方法
知徳合一, 知行合一, 福德一致 ↳主知主義	知とは何が徳（アレテー）であるかを知ることであり, 真の知は行為へと結びつき, 幸福を実現できる
善く生きること	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ただ生きるのではなく, 善く生きることである」</li> <li>善く生きることは正しく生きること（正義）</li> </ul>

## 5 プラトンの思想

<b>イデアの世界</b> （イデア界） ↑ エロース…イデアを求める心情 アナムネーシス…イデアを想起 ↑ <b>現実の世界</b> （現実界） ●二元論的世界観	魂の三分説	四元徳	国家の三階級
	理性	知恵	統治者階級
	気概（意志）	勇気	防衛者階級
	欲望（情欲）	節制	生産者階級
	理性による気概と欲望のコントロール →理想的な人間	<b>正義</b> 知恵・勇気・節制の 調和された状態	理想国家 ↓ 哲人政治

問1 〈自然哲学者〉世界の根源を探究した古代ギリシアの思想家についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2021・②・本・5)

- ① ヘラクレイトスは、この世界は常に不変不動であり、そこには静的な秩序が維持されていると考えた。
- ② ヘラクレイトスは、この世界は絶え間なく運動変化しており、そこにはいかなる秩序も存在しないと考えた。
- ③ ピタゴラス(ピュタゴラス)は、この世界には調和的な秩序が実現されており、そこには調和を支える数的な関係があると考えた。
- ④ ピタゴラス(ピュタゴラス)は、この世界は無秩序であることを特徴としており、そこには調和は見いだせないと考えた。

問2 〈知恵〉知恵について述べた次の文章を読み、文章中の a ～ c に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2017・追・13)

ギリシア哲学では、知恵が徳との関係で多様に論じられている。例えば、ソクラテスは、「人間は万物の尺度である」と主張した a のような、知者を ひょうぼう 標榜するソフィストと、徳について問答することで、真の知恵を求めた。さらに、プラトンは、『国家』において理想的な国家のあり方を問うなかで、魂の徳を論じた。そこでは、知恵が、節制・b・正義と並ぶ四元徳の一つとして、統治者に不可欠なものであるとされた。アリストテレスもまた c において、人間の優れた働きである、真理の観想や推論的な学問と一緒に、知恵を知性的徳の一つに数えた。このように、真の知恵を求める愛としての哲学は、人間の徳の探究としても、議論の深まりをみせたのである。

- ① a プロタゴラス    b 勇 気    c 『ニコマコス倫理学』
- ② a プロタゴラス    b 勇 気    c 『クリトン』
- ③ a プロタゴラス    b 寛 容    c 『ニコマコス倫理学』
- ④ a プロタゴラス    b 寛 容    c 『クリトン』
- ⑤ a ゴルギアス       b 勇 気    c 『ニコマコス倫理学』
- ⑥ a ゴルギアス       b 勇 気    c 『クリトン』
- ⑦ a ゴルギアス       b 寛 容    c 『ニコマコス倫理学』
- ⑧ a ゴルギアス       b 寛 容    c 『クリトン』

問3 〈無知の知〉自らの知をめぐって、ソクラテスがどう考えていたかの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2014・追・16)

- ① 自分に何一つ知恵はないが、人間にとって最善のことだけは知っている、と自覚していた。
- ② 自分が知者だと思いがらないために、知っていても知らないふりをするべきだと考えていた。
- ③ 自分は大切なことについて知らないで、そのとおりに、知らないと自覚していた。
- ④ 知らないと知っている以上、自分はすべてを知っていることになると考えていた。

**解明 POINT**

▶ 自然哲学者  
万物の根源(アルケー、始源)を求めた。

ミレトス学派
タレスをはじめ、ヘラクレイトス、エンペドクレス、デモクリトスなど
エレア派
パルメニデス
ピュタゴラス派
ピュタゴラス

**解明 POINT**

▶ ソフィストとソクラテス  
ソフィスト: **弁論術**  
真理を相手に一方的に注入  
↓↑  
ソクラテス: **問答法**  
問答を重ね、相手が真理を発見することを手助けする

**解明 POINT**

▶ 「無知の知」の自覚  
\*デルフォイの神託  
「ソクラテス以上の知者はいない」  
↓  
ソクラテス以上の知者を探め、政治家・詩人・技術者と問答  
↓  
「彼らは何も知らないのに知っていると思っているが、自分は何も知らないことを自覚している」  
↓  
デルフォイの神託は正しい

問4 〈プラトン〉プラトンについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2020・本・12)

- ① アイデアの認識を確実にするのは、理性ではなく、憧れという欲求であるとき、アイデアへの憧れに衝き動かされた魂を、翼を持った一組の馬と御者が天上に飛翔する姿になぞらえた。
- ② この世に生まれる前は無知であった人間の魂が、この世に肉体を持って生まれたきた後、感覚に頼ることでアイデアを完全に知ることができるようになると論じた。
- ③ 感覚的次元に囚われた魂を、暗闇の中で壁に映し出された影を真実と思い込む洞窟内の囚人の姿になぞらえ、感覚的世界からアイデアへと魂を向け変える必要があると説いた。
- ④ 理想国家のあり方を、理性と欲望が調和した魂の姿と類比的に論じ、そのような国家では、全ての人が哲学を学び優れた市民となることで、統治する者とされる者の関係が消滅すると述べた。

問5 〈アイデア論〉プラトンの考え方に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2010・本・8)

- ① アイデアは個物に内在する真の本質であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉えることができる。
- ② アイデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉えることができる。
- ③ アイデアは個物に内在する真の本質であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。
- ④ アイデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。

問6 〈プラトンの魂の三分説〉プラトンは、魂の三部分の関係に基づいて国家のあり方を説明した。彼の国家についての思想として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2005・本・4)

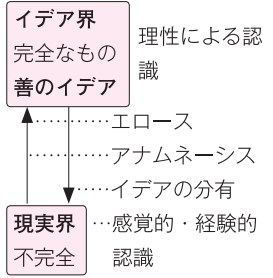
- ① 一人の王の統治は、知恵を愛する王による統治であっても、つねに独裁制に陥る危険を孕んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵・勇気・節制を身につけ、民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。
- ② 統治者階級は、知恵を身につけ、防衛者階級を支配し、防衛者階級は、勇気を身につけ、生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従い節制を身につけたとき、国家の三部分に調和が生まれ、正義が実現する。
- ③ 知恵を愛する者が王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が、勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき、正義が実現する。
- ④ 知恵を身につけた統治者階級が、防衛者階級に対しては臆病と無謀を避け勇気を身につけるよう習慣づけ、生産者階級に対しては放縦と鈍感さを避け節制を身につけるよう習慣づける。このようなときに正義が実現する。

問7 〈アリストテレスのアイデア論批判〉アイデア論を批判したアリストテレスについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

(2015・本・16)

解明 POINT

▶ アイデア論



▶ プラトンの比喩

洞窟の囚人
◆人々は洞窟に映る影を唯一の实在と思い込んでいる
二頭立ての馬車
◆駟者（理性）が二頭立ての馬車（気概と欲望）をコントロールしている
想起（アナムネーシス）
◆人間の魂は、もともとアイデアの世界に住み、現象界の美や善を手掛かりとしてアイデアを想起こす

※洞窟のイドラ（ペーコンの命名。資質や環境に応じて個々の人間の身についた偏見のこと）

解明 POINT

▶ アイデアと形相・質料

プラトン	アリストテレス
アイデア	形相 (エイドス) 質料 (ヒュレー)
理性によってのみとらえることのできる永遠的・普遍的な「真の实在」	形相…アイデアが内在化したもの。 個物に内在する本質。 質料…素材